

『 トン、トン、トン 』 0歳児 12月



エピソード

オムツ交換でおむつ交換台に寝転んだA児（8ヶ月）は、「オムツ変えようね、ズボン脱ぐよ」という保育者の声掛けを聞いて保育者の顔をじっと見つめました。A児が保育者から視線をそらし、仰向けで寝転びながら右手を前後に動かすと手がおむつ台にあたり、音がしました。保育者がA児の手の動きと同じ調子で「トン、トン、トン」と言うと、A児は動きを止め、じっと保育者を見つめました。そして今度は保育者の方を見ながら、手をさっきと同じように動かしたA児。保育者も笑顔で同じように「トン、トン、トン」と言うと、A児はニコッと笑い、保育者の顔を見ながら手を動かし、保育者が「トン、トン、トン」と言う度、嬉しそうに笑っていました。

一つ一つの動作を言葉にしていくことで言葉と動きのつながりが分かるようになって見通しがもてるようになっていきます。

成長と共に運動機能が発達してくると、腕や手を動かせるようになってきます。

子どもの動きを言葉にしたり、リズムをつけたりしていくことで、やりとりする楽しさを感じて欲しい。

大人が子どもの動きや声に優しく応えていくことで安心感をもち、愛着関係が形成されていきます。

保育者の思い

子どもの育ちや学び

家庭だったら・・・

- ・何気ない子どもの動きにリズムを付けてみたり言葉を付けたりすると子どもは楽しんでくれたりします。
- ・子どもの仕草の一つ一つに微笑みかけるだけでも子どもは安心します。